



2006年那珂川



2007年久慈川



2008年里川



2009年久慈川



2010年里川



2011年久慈川



水の思い出 ⑥〇

常陸太田市のフェイスブックに登場した写真を見て驚きました。里川の堤防に刈り残しの草で「ひとのちから^{むげんたい}∞」と文字が浮かんでいます。人づてに聞いたところによると去年も文字が書いてあったとのこと。車で橋を通過するときにはフェンスが邪魔をして文字が読み取れません。この堤防を通して登校する小学生や、散歩する人など、人から人へ、気持ちがほんわかとなるエピソードとして広まって来ていたのです。これを書いたのは誰でしょう？探してみたら…。

河川の堤防除草を仕事としている常陸建設さんでした。「最初は10年くらい前、常磐線陸橋と留橋の間あたりに、『川をきれいに』と作ってみました。ちょっとした遊び心でね」「それから毎年那珂川、久慈川、里川などで文字を書いてきました。毎年何を書こうかと考えてます」堤防の除草は年に2度ほど。今年も5月の連休後に第1回目の除草を行った時にこの文字を刈払い機で書いたのだそうです。次の除草はお盆明けから10月頃、その間草が伸びて文字が読めなくなってしまうのを避けるため、10日から半月おきくらいに文字の部分の刈払い機でメンテナンスを続けているそうです。常陸太田市、いいね👍

(塩原 慶子)

お宝再発見



常陸太田市には美術館や大きな博物館がありません。そのため、普段なにげなく行き来している公共施設に飾ってある絵や書が、実は高名な作家の作であることがままあります。また、学校は地域の中心として皆に愛され多くの品が寄贈されてきた、いわば地域の宝物があつまっている場所でもあります。今回はそんなお宝を紹介します。みなさんぜひ機会を見つけてお宝にふれてみましょう！

(塩原 慶子、関根 悦美、萩谷 浩司)

① 緞帳原画「暁灯」加倉井和夫作（パルティホール）



パルティホールの緞帳の原画を描いたのは加倉井和夫氏（1981年日本芸術院賞受賞・1919年—1995年）であることは多くの方がご存知でしょう。その原画そのものも、パルティホールに飾られています。原画に寄り添うように、加倉井氏直筆による作品名「暁灯」も飾ってあります。

（原画が飾られているのは応接室のため、パルティホールにお問い合わせいただければご覧いただくこともできるそうです。）

② 「秋晴れ」榎戸庄衛作（商工会館）



パルティホールのおとりにある常陸太田市商工会館、2階の会議室入り口横に、プラコンをこぐ少女の絵が飾ってあります。描いたのは旧岩瀬町出身の画家・榎戸庄衛氏。昨年秋、茨城県つくば美術館で展覧会が開催された折に、この絵も代表作のひとつとして貸し

出されました。昭和20年頃から常陸太田市に疎開していた時に描いたと言われています。モデルとなった少女は馬場町にお住まいだったとか。商工会館が新築された際に、所有者から寄贈されました。



③ 「魁」 吉沢鉄石書（里美文化センター）



吉沢鉄石氏は旧里美村折橋の出身で、自身を通った小学校跡地にある里美文化センターに寄贈されたものです。
「魁」が飾られているのは階段の踊り場なので、迫力ある書を間近で見ることができます。

④ 「曙」 山崎猛作（春友彫刻の森）



常陸太田駅旧ロータリーに設置されていた彫刻「曙」山崎猛氏作。今は緑豊かな春友彫刻の森公園にあります。飾られる場所で作品のイメージが大きく違って見えます。

⑤ 「土偶」 (梅津会館)



佐竹小学校の校庭から発見されたもので、県内でも数少ない人体を板状に表現した縄文時代中期の土偶です。縄文人の自然に対する畏敬の念からくる呪術の道具として土偶が使用されていたと考えられます。

常陸太田市指定文化財。梅津会館ではレプリカを手にとって見るすることができます。

⑥ 「鬼瓦」 (佐竹小学校)



旧天神林小学校の屋根に使われていた鬼瓦です。大変きれいな形で保存されています。

⑧ 「帆船模型」 (久米小学校)



市内大平出身の三宅精氏により平成元年の久米小開校時に寄贈されたガレオン型帆船木製模型。

旧金砂郷町全校に同様の模型が寄贈されています。

南中学校に保存されていたものは、昨年の震災でこわれましたが、美術の先生が破片を拾い集め修復したそうです。

⑨ 「幻灯機」 (旧河内小学校)



旧町屋中学校の備品の第1号です。大正時代のものですが、とてもきれいな状態で保存されています。

⑦ 「版木」 (佐竹小学校)



作られた時代も佐竹小学校に保存されている云われもよく解りませんが、彫られている文字の中に「塩横町」とあり、薬屋さんのような屋号も読み取れます。

⑩ 「顕微鏡」 (旧河内小学校)



西河内上尋常小学校で使用していた備品で明治時代のもので。

スcoop！河内小学校にゴジラがいた!?



今年閉校した旧河内小学校にゴジラがいたという話を聞きつけ、早速校長を務めていた小野司寿夫先生に話をうかがってきました。

「子供の頃はウルトラマン、ガメラ、ゴジラといった特撮シリーズに夢中でした。特にゴジラはその見た目の怖さや、決して負けない絶対的な力の象徴として当時の子どもたちの憧れでした。」「このゴジラは十数年前に購入したものでゴジラVSビオランテのモデル。ゴジラシリーズは作品によってゴジラの顔が違います。お気に入りはゴジラVSモスラバージョンです。」と小野先生。旧河内小学校の玄関には立派な書が飾ってあり、この力強い書に合わせられる物はなんだろうと考えていた時、思いついたのがゴジラだったのだそうです。

子どもたちの反応はというと、予想どおり(?)。時は流れ、今の子どもたちはほとんどゴジラを知らず特に反響はなかったそうです。しかし、「思いがけず保護者の方には喜んでもらえました。」(萩谷 浩司)

「君が代」に登場するさざれ石って？



君が代に「さざれ石の巖となりて」と詠われたこの石は、幸久小学校・校長栗原裕先生の思い出の石です。

先生は20年ほど前から、休日にはリュックを背負い八溝石を探して歩いたという愛石家。12年前に管理職登用試験に合格したお祝いにと、先輩の小澤通男先生からいただいたのが写真の「さざれ石」です。国歌発祥の地といわれる岐阜県春日村で産石されたもので、長い長い年月をかけ小さな石と石が雨水にとけた石灰分などにより、まるで手をつなぐように結びついています。

旧佐都小学校に勤務していたときは、「ふれあい給食」の時間に、子どもたちに手に取ってもらい石の由来についてお話をしたそうです。

「さざれ石が詠われている君が代には、日本の国の一人ひとりがひとつにまとまって千年も万年も長く栄えますようにという祈りが込められている。国歌を歌うときは、子どもたちにも校長室にあったこの石を思い出してほしいし、これからもたくさんの人に見てほしい。」とのことでした。

(関根 悦美)



東京オリンピックの聖火トーチ



今年で創立50周年を迎える南中学校の校長室。専用のガラスケースにおさめられたオリンピックの聖火トーチについて、教頭の大内浩一先生にお話をうかがいました。

学校の話に詳しい、地元の歯科医・小沢一友^{おざわかずとも}さんに聞いたところによると、このトーチの持ち主は久米中学校最後の年の卒業生、故 木村誠さん。

木村さんは、東京オリンピックが開催された昭和39年、太田一高の1年生のときに聖火ランナーに選ばれ、旧金砂郷町の国道239号線を、このトーチを掲げて駆け抜けました。そして、出身校の旧久米中学校が現在の南中学校に統合されたのを記念して、寄贈したそうです。先端部分には聖火が燃えた跡が残り、ホルダーの部分には五輪のマークなどが刻まれています。

奇しくも今年はオリンピックイヤー。このトーチで運ばれた聖火は、ロンドンの地へとつながります。

(関根 悦美)



思い出だけになった宝物

校庭のポスト

桜の木の下に、なぜか赤い郵便ポスト。今は余り見かけない懐かしいタイプですが、なぜ、いつここに設置されたのかなど、まったく分かりません。お花見給食等の時はいつもこのポストのあたりで開催されたそうです。昨年撤去されて今は見る事ができません。

職員室のビクター犬

今は使われていない学校の職員室に一匹の犬が…。昔レコード店の店頭に必ずと言っていいほど見かけた陶製の犬です。小中学校は地域との関わりが深く、地元の方から多くの寄贈品が寄せられるのが常でした。この犬も同じような寄贈品だったのでしょうか？子供たちの歓声が聞こえなくなった校庭をさみしげに見ていたビクター犬も、別の場所に保管されることになるそうです。



伊藤博文の書

初代内閣総理大臣・伊藤博文の書が、ある学校に飾られていました。氏が64歳の時に書いたとの説明もありますが、現在は見る事ができません。



き り と り 線

応募受付は8月1日
午前10時から

小・中学校の皆さん！今号で紹介した常陸太田市の宝物に関するクイズです。生涯学習センターまで答えをお持ちください。5問中3つ以上正解の方、先着50名にフォンスオリジナル缶バッジをプレゼント(*^_^*)

答 え

ク
イ
ズ

- ①パルティホールの緞帳になった原画に描かれている山の名前は何でしょう？
- ②商工会館の2階にある「秋晴れ」の絵で少女が乗っている乗り物は何でしょう？
- ③里美文化センターに飾ってある吉沢鉄石氏の書にはなんという文字が書かれているでしょう？
- ④南中学校にあるトーチは東京オリンピックで使われたものです。東京オリンピックの開催されたのは西暦何年でしょう？
- ⑤春友彫刻の森にある彫刻「曙」、ここに設置される前はどこにあったでしょう？



学び舎の思い出

里美中学校



昭和天皇がご休憩になられた椅子



天皇陛下の椅子

昭和51（1976）年5月、第27回全国植樹祭が、昭和天皇と香淳皇后ご夫妻の御親覧のもと、太子町高柴で開催されました。その途次、昼食をとられるために里美中学校にお立ち寄りになられた際に、両陛下がお使いになった椅子2脚とテーブルが、今も里美中学校に保管されています。

当時、里美中学校の校舎は鉄筋コンクリート3階建て（望楼を入れると4階建て）で、陛下が使われるため、新たなトイレが設置され、その警備は非常に厳重なものだったようです。両陛下がご休憩され、昼食をとられたのは1階の校長室でしたが、警備の都合上、窓には厚いカーテンが掛けられて閉じられていたそうです。そのため、陛下が外の様子をお尋ねになられた時の説明用として、1枚の絵が準備され、窓際に飾られました。

現在も大切に保管されている絵は、当時在校していた美術の先生が、校長室から見える風景を描いた水彩画で、説明をしやすくするため、画面に小さく番号がふられています。

この絵については、何に使われたものか全くわからないままで、つい最近まで保管されていましたが、里美中学校創立50周年記念事業実行委員会の中で、その存在が明らかとなり、長年の謎がとけました。

これらの品々は、昭和天皇行幸の思い出とともに、これからもずっと大切に保管されていくことでしょう。

（菊池 壮一）

生涯学習情報誌「フォズ」は、2～3ヶ月毎に発行し、市内全世帯に配布され、大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

◆広告を募集している情報誌

平成24年9月から平成25年4月までに発行予定の
生涯学習情報誌「フォズ」第62号から第65号

◆広告料（1回あたり）※会長が指定するページの最下段

- ① 縦4.5cm×横 8.8cm／10,000円
- ② 縦4.5cm×横17.9cm／20,000円

問合せ

フォズ・ネットワーク事務局
（生涯学習センター内）

TEL:0294-72-8888

URL:edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu

百姓母ちゃん農日記 ⑥



『百姓母ちゃんとエネルギー』

エネルギーの自給ってできると思いますか？今使っている石油、ガスなどの燃料に代わるものが、もっと身近なところで生み出され、しかも自然環境にもいいものであったら素敵だと思いませんか？

食に関しては自給自足する自信は何となくある百姓母ちゃんですが、農業するにも軽油・ガソリンは沢山使いますし、日々の生活に電力は欠かせません。それをいかに他人任せにしていたかを痛感したのが、去年の3.11でした。

震災当初の停電のときは、日ごろ面倒くさく思っていた薪ストーブや薪で炊く風呂が大活躍しました。ご近所さんにも声をかけて、お風呂を沸かした日はみんなで順番に入って温まり、「やっぱり薪のお風呂はあったかいね」と、ほほ笑みあったのを思い出します。

また、うちでは、裏山の斜面を使って横穴を掘り、作物などを貯蔵しておく「氷室」を使っています。夏

に洞窟に入るとヒヤリしますね。それと同じように、この横穴は年間通して5℃くらいに保てる天然の大型保冷库。湿度は90%以上で、作物の発根も促し、生きたまま鮮度を保つことができます。

サツマイモなどもこれで秋の収穫から翌年の5月まで保存できますし、夏場は毎日できる果菜類の保冷にも役立ちます。冷蔵庫には多大な電力を使うので、これで随分省エネになっている、うちのささやかな自然エネルギー利用です。

私の住む地域では、身近なところに風力発電所・水力発電所があり、さらに小さな取り組みとしては、共同で水力を使った精米所を、いまだに管理運営されている集落もあります。さらに、千葉の方では廃油をトラックやトラクターの燃料にする取り組みも本格化しているそうです。

これからも自然エネルギーを生かす取り組みを考えて実践してゆきたいと思っています。

(布施 美木)



子育て奮闘記

踊るママパラダイス ⑥0

コースケが沖縄に修学旅行へ行きました。沖縄は梅雨時にも関わらず天候に恵まれ楽しい時を過ごしてきたようです。私はというと、彼がどれだけ家庭で重要な存在が想像以上に身にしみました。

というのも、私はコースケが出かける前に少し楽だと思っていたのです。毎朝5時に起床して6時に送り出さずにすむとなると、いつもより長く寝ていられるとが、学校に着いたが帰りの電車に乗れたが、自転車がパンクしたりしていないか心配しなくてすむと考えていたのです。でも実際はコースケのいない4日間、とてもさみしく持ちこたえた日々でした。

帰宅の日、学校まで迎えに行くと、よそのお母さん同様、バスから降りてきた彼を見るなり胸がいっぱいになりました。「お母さんはさみしかったよ。」と言うと彼は「ごめんなさい。楽しむのに忙しくてお母さんのこと思い出せなかった。」との事。それもまた、嬉しかったです。

彼に障がいがあると知った日からずっと、願うことは彼の自立と健康でした。そして彼自身が選択して生きていける事。母親の私はいつか先に旅立たなければ行けないことを思うといつも不寝がつきまといいますが、二人三脚をやめて一人で走り出す日が来るためには、私のいない時間を謳歌することも大切だろうと思いました。

旅行中思い出さなかった両親のために、「いつの世も」と、願いがこもったミンサー織りのストラップをお土産に買ってきてくれました。私の宝物になったのは言うまでもありません。

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

おなかがすいていたんだと…

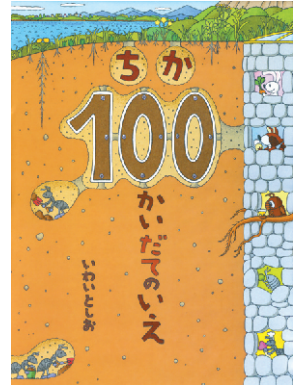


小学1年生の息子は、幼い頃から「数字」が大好きで、数字がある物は何でも…。エレベーターや時計が好きなのはもちろんのこと、一番感心したのは、車のメーターを見ては、車種ごとにメーターの絵を描く事でした。そんな息子が一目で気に入った絵本が『ちか100かいだてのいえ』です。

主人公のクウちゃんが、地下100階で行われるパーティーに行くお話です。地下100階まであるので、色々な動物が住んでいて、クウちゃんは動物達と一緒に遊んだり、色々な体験をしながら地下100階を目指します。うさぎさんは野菜を育てているので、一緒に人参ジュースを飲んだり、セミの幼虫さんとは、大人になった時のために一緒に鳴く練習をしたり、ダンゴ虫さんとは、丸くなったダンゴ虫を転がしてボウリングをしたりと、思わず微笑んでしまうお話が続きます。地下1階ごとに生活している様子が、とても可愛らしい挿絵で描かれているのも魅力です。

ちょっと意外な動物も出てくるので、次の階に住んでいるのはどんな動物かな？地下100階には誰がいるのかな？…と、楽しみながら読んでみて下さい。

(次回は 高柿町 綿引 紗織さん)



カタクリに来たスギタニルリシジミ

ほつ
とひといき

スギタニルリシジミ (シジミチョウ科)

最近の地球温暖化の影響か南の地域の生物が、北へ分布を拡大していることがよく話題に上る。チョウの世界では、ナガサキアゲハやツマグロヒョウモンなどが例に挙げられる。これらのチョウは数年前までは茨城県より南、近畿地方までいかないと見られなかった。近年は県内で普通に見られるようになり、今では福島県以北にも分布を広げている。

写真のスギタニルリシジミも分布拡大をしているチョウである。しかし、南方系のチョウではなく、どちらかといえば、北方系のチョウである。茨城県では花園や里美、八溝山の県境の限られたところでしか見られないチョウであった。成虫は4～5月の年1回しか出ないため会うには、春早く県境付近の森の中に行かねばならなかった。しかし、数年前から、今まで居るはずがない所で見られるようになった。太田市内では高鈴山周辺や春友の沢周辺である。分布拡大の理由は正確には分かっていないが、もしかしたら、温暖化で新しい食樹にたどり着けたのかもしれないと思われる。普通種のルリシジミに似ているが、裏面の色が濃い色をしており、表の青色も藍色に近い

色をしているのが特徴である。年に1回春早くにだけ出現し、あまり目立たないチョウであるが、分布の変化に注意していきたい種である。この種を含め、近年昆虫の分布が大きく動いている気がする。気を付けてみていきたいと思っている。

(佐々木 泰弘)

ちよつとひといき

「あひるの工房cafe」

大方町にあるお菓子のお店「あひるの工房」さんが鯨ヶ丘でカフェをオープンしました。



メニューは、ケーキの他ランチが用意されており、ランチメニューは日替わりで3種類のうどんの中から一つ選び、それに小鉢とデザートプレート、ドリンクがついています。うどんは、讃岐うどん風のツルツルシコシコ。地元製麺業者さんに太さや固さを指定したオリジナル麺。オーナーのこだわりが感じられます。ケーキは10種類、口どけのやさしいふんわりケーキが自慢です。

鯨ヶ丘にホッとできる空間がまた一つ。お友達と一緒に、またはお一人でも。広めのテーブルでゆったりと時間を過ごしてはいかがでしょうか。

(岡崎 靖)

- 常陸太田市東三町2153-3 ●tel&fax 0294-72-0401
- 営業時間 9:00～19:00(ラストオーダー18:45)
- ランチタイム 11:00～15:00
- 定休日 毎週火曜日 ●駐車場 3台あり